

<第 25 回定期総会 立憲民主党 枝野幸男代表 あいさつ>

皆さん、おはようございます。ご紹介いただきました立憲民主党代表の枝野幸男です。退職者連合の総会がこうして無事開催されましたことに、心からお祝いを申し上げますとともに、日頃から立憲民主党に、そして各地の我々の仲間に対して力強いご支援とご指導をいただいておりますことを、まずはこの場を借りてお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症による危機がもう 1 年半以上続く中で、皆さんも退職者連合の活動をはじめとして、様々な暮らし、そして社会参加、感染の不安とたたかいながらという大変難しい状況の中で過ごしてこられたことと思います。先輩世代の皆さんからワクチン接種が進んでいる状況で、もしかするとすでに 2 回打たれて、一定安心感が高まっておられる方もいるかと思いますが、残念ながらこのワクチン接種も混乱を極めている状況があります。お子さん、お孫さんをはじめ、周囲にまだ接種ができていない方がたくさんいらっしゃるという状況の中で、引き続きさまざまな制約を受けながら、当たり前の日常を過ごせない日々が続いているという風に思っております。

先ほど来、いろいろと今の菅政権の対応についてはお話もございました。あらためて一個一個重ねて申し上げませんが、もはや今の、安倍、そして菅政権では、こうした 100 年に一度と言えるような国家、社会の危機に到底対応できないということは国民の間でも明確になっているという風に思っております。

直近で申し上げますと、今のワクチンの混乱もそうでありまして、あるいは東京の緊急事態宣言に関連する飲食店、酒類販売についての不当な圧力、そしてこれに対するまったく無責任な言い訳にもならない言い訳。こうしたことだけをとりえても、大変政治と社会が深刻な状況にあると言わざるを得ません。

同時に、これは足元での一過性の問題ではない、という風に思っております。この 20 年、30 年にわたって、改革という名のもとに、守るべきものまで破壊をしてきてしまった。

たとえば保健所機能があまりにも弱くなりすぎてしまっていたことが、電話をかけてもつながらないという状況で見えました。各地で公立の医療機関をどんどん縮小、廃止をしてきた、ということがこうした大規模な感染症に対して軸となる、中心を担うべき医療体制というものを、大変脆弱なものにしてきてしま

いました。

また、使命感の中でがんばっておられる医療従事者、介護職員のみなさん、あるいは保育所職員をはじめとして、窓口業務にあたっておられる公務員の皆さんなど、本当に多くの皆さんが重労働をしておられる。感染のリスクの中でそれがさらに重たくなっている中で頑張っていていただいておりますが、そうした皆さんの人手不足、さらには処遇、労働環境が非常に厳しいものであるという中で、対応にあたっていただいているという現実。

20年、30年の行き過ぎた新自由主義の弱さ、もろさというものが感染症を機に明確に表れた。そのことがこの危機をより一層大きなものにしてしまっているという風に受け止めざるをえません。

もはや安倍・菅自公政権に対して国民の信頼は完全に離れていると思っております。問題は、もうひとつの選択肢となるべき私たちが、いかにその選択肢でありうることを国民の皆さんに理解をしていただけるかということが今まさに問われています。それが、間違いなく3か月以内にある衆議院選挙に向けての私たちの役割であるという風に思っております。

それは私たちが政権を担うかどうかということにとどまりません。この政治状況があと数年続けば、先輩世代の皆さんが積み重ねてきてくださった、この国の持っていた財産や強みといったものを全て吐き出されてしまうという強い危機感を持っています。

次の総選挙で、時代に合わなくなり責任感を喪失した政権を変えるためにあらゆるものを乗り越えて政権を奪取する。それが私に課せられた歴史的な責任、使命だという強い自負を持っています。とはいえ、政治を動かすというのは、一人の強い意志でできるものではありません。思いを同じくしていただける多くの皆さま方に共にたたかっていただくことによって政治を変えることができるという風に思っております。

連合の皆さん、国民民主党、社民党の皆さんも含めて多くの皆さんと力を合わせ、この危機を乗り越えるための新しい政権をかならず作るという決意でたたかってまいります。

退職者連合の皆様にも、ぜひこの時代状況と危機感を共有していただき、ともにたたかっていただきますようお願いを申し上げ、来年は『内閣総理大臣』としてこの場にご挨拶に伺うという決意を申し上げて、わたくしのごあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。